

強度行動障害と虐待

～虐待が起こるメカニズムを考えてみる～

沖縄県社会福祉士会 山城健児

今日の目的

虐待防止研修等で法律や制度・虐待の事例や通報の仕組み等を伝達することに多くの時間を費やしてきた。

支援スキルや知識、法律が整備され、施設従事者による虐待件数は通報件数と共に増加し、「制度の理解が促進された」と捉えることもできる。

一方で、なぜ知識や制度が充実してもなお、虐待はなくなるのか。「虐待の起きるメカニズムを考える」をテーマとし、支援者自身が自己を客観視できるよう演習を行うことで虐待を未然に防ぐことを目的とする。

令和6年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修の全体象

○障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修では、都道府県の行う障害者虐待防止・権利擁護研修において企画・運営、講師等を担う指導者を養成する。

○これまで、都道府県研修の実施内容にばらつきが大きかったことから、令和6年度から都道府県研修における標準的なカリキュラムを提示した。当カリキュラムの内容について講義・演習を通して都道府県に伝える。

（都道府県研修においては、標準的な研修カリキュラム以上の内容を実施することを地域生活支援事業の実施要綱上明記）

○また、都道府県のスキルアップのための国研修独自の講義・演習も実施する。

ア 【講義部分】※事前視聴

共通講義

- I 障害者虐待総論-成立までの経過、社会的意義
- II 障害者虐待防止法の概要
- III 当事者の声
- IV 性的虐待の防止と対応
- V 身体拘束等の適正化の推進
- VI 通報の意義と通報後の対応～通報はすべての人を救う～

自治体コース講義

- I-1 養護者による障害者虐待の防止と対応①
- I-2 養護者による障害者虐待の防止と対応②
- II 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待の防止と対応
- III 使用者による障害者虐待の防止と対応
- IV 事実確認調査における情報収集と面接手法(基礎編)
- V 事実確認調査における情報収集と面接手法

管理者・虐待防止責任者コース講義

- I 法人・事業所の理念と管理者の役割
- II-1 虐待を防止するための日常の取組について①
- II-2 虐待を防止するための日常の取組について②～身体拘束・行動制限の廃止と支援の質の向上～
- III 虐待が疑われる事案への対応
- IV 障害者虐待防止委員会、身体的拘束等の適正化委員会と虐待防止責任者の役割
- V 虐待防止委員会の実際の運営について

イ 【演習部分】※伝達研修

自治体コース演習

- 演習① 養護者による障害者虐待防止の通報受理から養護者支援の検討にかけての演習
- 演習② 施設従事者による障害者虐待防止の通報受理から事業所指導の検討にかけての演習

管理者・虐待防止責任者コース演習

- 演習① 虐待が疑われる事案への対応
- 演習② 虐待防止委員会の活性化
- 演習③ 身体拘束適正化委員会の運営

ウ 【国研修独自部分】※スキルアップ

共通

- 特別講義① 虐待防止関連の最新行政説明
- 特別講義② 障害者虐待を防止するために(社会全体の動向も踏まえて)
- 特別演習① 判断に迷う虐待事案に関するグループワーク・意見交換
- 特別演習② 元気な都道府県の実践を聞いて情報交換!
- 特別演習③ どう進める? 都道府県での伝達研修

※アの動画は国において作成し、ホームページで公開中

(Ⅲ 当事者の声を除く)

虐待の発生要因

○教育・知識・介護技術等に関する問題

○支援者のストレスや感情コントロールの問題

○倫理観や理念の欠如（あり方）

○虐待を助長する組織風土や支援者間の関係性の悪さ（チームワーク）

○人員不足や人員配置の問題及び関連する多忙さ



リスクはゼロにはならない

速やかな通報が、全ての人の被害、責任を最小限にし、虐待行為をエスカレートさせないための重要な行為となります

～令和6年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修資料より一部抜粋～

強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書～概要①～

1. 支援人材のさらなる専門性の向上

- 強度行動障害の障害特性を正しく理解し、根拠のある標準的な支援※をチームで行うことを基本として、予防的な観点も含めて人材育成を進めることが重要。
※標準的な支援とは個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を調整する支援
- 標準的な支援を踏まえて適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導助言ができる現場支援で中心となる中核的人材(仮称)の育成※が必要。
【求められるスキル】・自閉スペクトラム症の特性・学習スタイルを説明できる・構造化の意味を説明できる・機能的アセスメントが実施できる
・家族の不安等を理解し共感に基づく信頼関係が構築できる・特性を活かした支援を提案できる 等
※強度行動障害を有する者の支援に取り組む各事業所に配置される想定で育成
- 困難事例について中核的人材等に対して指導助言が可能な、高度な専門性により地域を支援する広域的支援人材(仮称)※の育成が必要。
【求められるスキル】・地域の事業所を支援・対応力を強化する・地域の支援体制づくりを牽引する・支援マネジメント、組織マネジメント 等
※地域の強度行動障害を有する者の人数等の地域実態を踏まえて、都道府県等の広域で必要数を想定して育成
- 地域における支援者が互いに支え合い連携して支援を行うことや、率直な意見交換や情報共有等の取組を進めるため、人材ネットワークの構築が必要。

2. 支援ニーズの把握と相談支援やサービス等に係る調整機能の在り方

- 市町村は、本人とその家族の支援ニーズを適切に把握して支援につないでいくこと、(自立支援)協議会の場を活用しながら地域の支援体制の整備を進めていくことが重要。その際、支援につながっていない本人、家族を把握、フォローしていくことが重要。
- 相談支援事業所、基幹相談支援センター、発達障害者支援センター等の相談支援機関が、それぞれの役割や強みを活かしながら、相談支援やサービス等に
係る調整を行っていくことが重要。
・相談支援事業所…支援のコーディネート・マネジメント
・基幹相談支援センター…地域の相談支援事業所への後方支援(対応が難しい事案の対応)
・発達障害者支援センター…基幹相談支援センターや相談支援事業所に対して個別事案への対応も含めて助言等により支援

3. 日常的な支援体制の整備と支援や受入の拡充方策

- 通所系サービス(主に生活介護)、短期入所、訪問系サービスが地域で安定的に提供されるよう体制の整備を進めていくことが重要。
※強度行動障害の状態によって、通所系サービスに通えない状況となった場合、必要な期間において、行動援護や重度訪問介護、重度障害者等包括支援による個別支援の活用が有効。
- 強度行動障害を有する者の居住の場として、グループホームにおける受入れの体制整備を進めていくことが必要。
【利点】・少人数の生活であり生活環境や支援内容を個別化しやすい・一人一人の特性に合わせやすい・通所系サービスや行動援護を利用して個別の外出ができる 等
【課題】・少ないスタッフで支援するため、行動障害の状態が悪化した場合に応援体制が取りにくい・心理面も含めたスタッフの負担が大きい 等
- 障害者支援施設では、地域移行に向けた取組を進めつつ、標準的な支援や建物・設備環境を含めた支援力を一層向上することが必要。
【期待】地域の支援体制の中で、行動障害の状態が悪化した者を集中的に支援する必要がある場合の受入れや、緊急の短期入所 等
【課題】それぞれの障害特性に見合った環境を提供することが難しい場合がある 等
- 本人、家族が地域で安心して生活できるよう、市町村は地域生活支援拠点等の整備と緊急時対応や地域移行等の機能の充実に取り組む※ことが重要。
※日頃からの支援ニーズの把握が必要。また、入所施設や居住系事業所だけでなく、支援に慣れた職員がいる通所系事業所等の活用も進めていく必要。
- 障害支援区分認定調査における行動関連項目の評価が適切に行われるよう、認定調査員の強度行動障害に関する理解の促進を図ることが重要。
- 行動関連項目の合計点が非常に高い者等、支援が困難な状態像の者がサービスの受入れにつながっていない状況も踏まえ、受入拡大や支援の充実の観点から、より高い段階を設定して、報酬面に反映していくことが必要。

強度行動障害とは

～国における考え方～

強度行動障害とは、自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている「状態」とされています。

強度行動障害になりやすいのは、重度・最重度の知的障害があったり、自閉症の特徴が強い、「コミュニケーションが苦手な人」です。

なぜ強度行動障害になるの？

障害特性（コミュニケーションの苦手さや感覚の過敏性など）に環境がうまく合っていないことが、人や場に対する嫌悪感や不信感を高め、行動障害をより強いものにしていきます。

コミュニケーションとは

～Type AIに聞いてみた～

- 人と人との間で情報や意見を伝えあう事（言葉、身振り、手振り、表情などさまざま）
- コミュニケーションがうまくいかないと、誤解やすれ違いが生じる可能性高くなる
- 相手の話に耳を傾けるだけでなく、自分も率直に意見や感情を伝えることが重要
- 良好なコミュニケーションは人間関係だけでなく仕事や学業でも重要です

AIではなく人間（ヒト）として出来ることは何か

虐待の発生要因を軽減する3つの視点

- 氷山モデルシート
 - マズローの欲求の階層
 - 脳の三層構造仮説（あくまでも**仮説**です）
-

基本・倫理観（人間として社会的に守るべき規範）

（この仕事を選んだ時に一人一人が大切にしていることがあるはずです）

冰山モデルシート **ワーク 1**

【課題となっている行動】

(本人の特性)

(環境・状況)

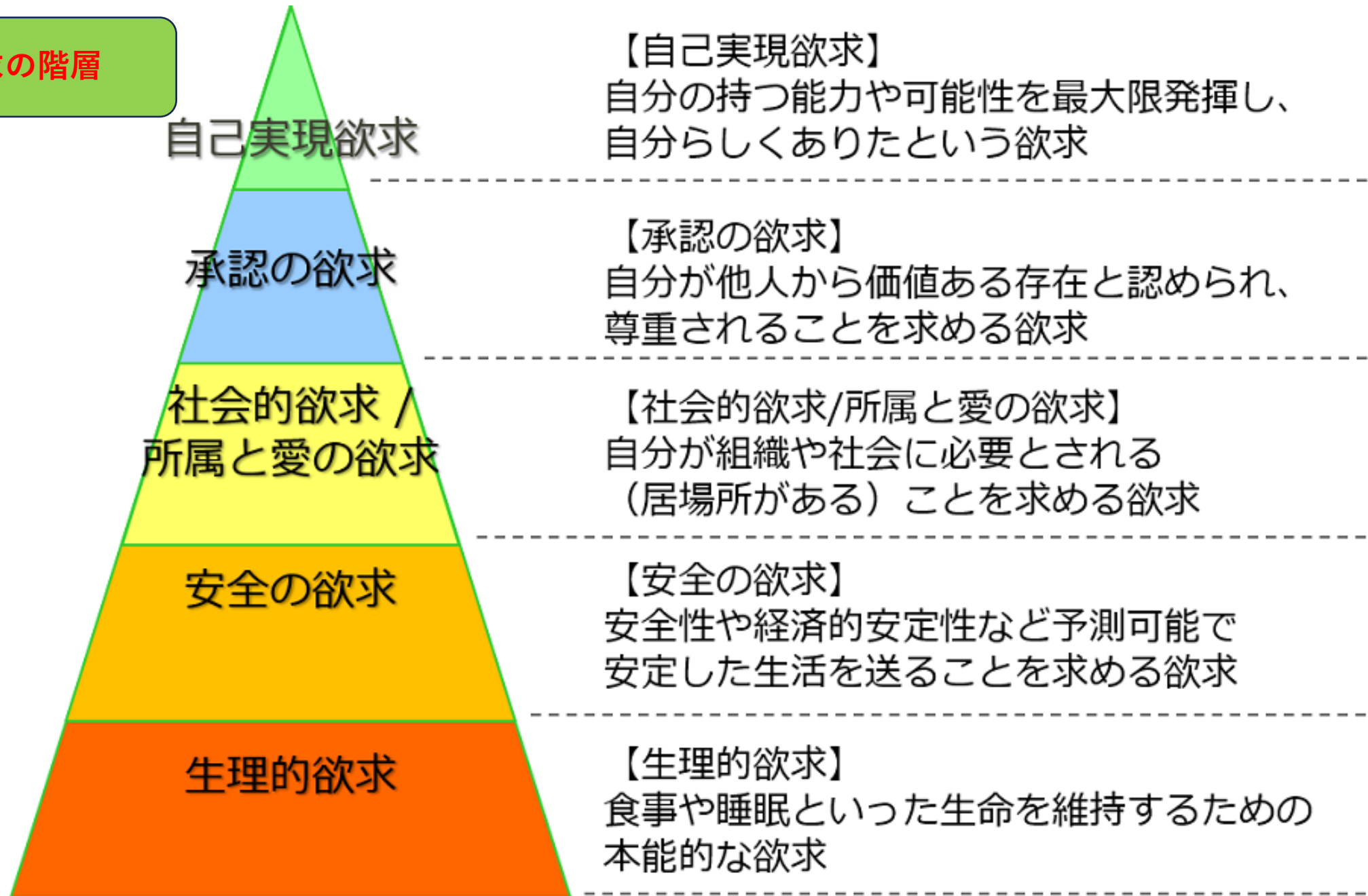
【仮説】 行動の背景にある対象の本来伝えたいメッセージ

行動支援計画

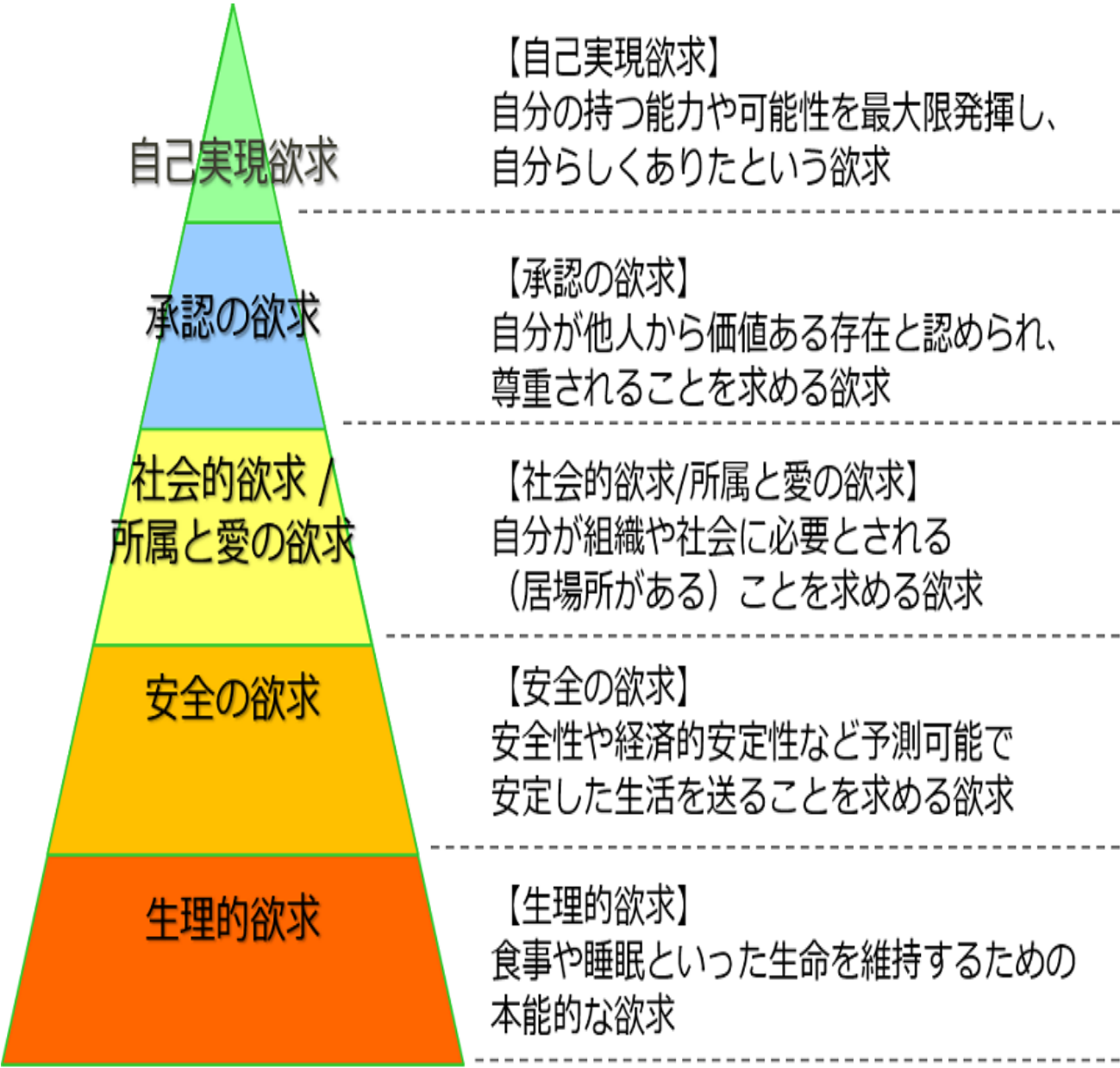
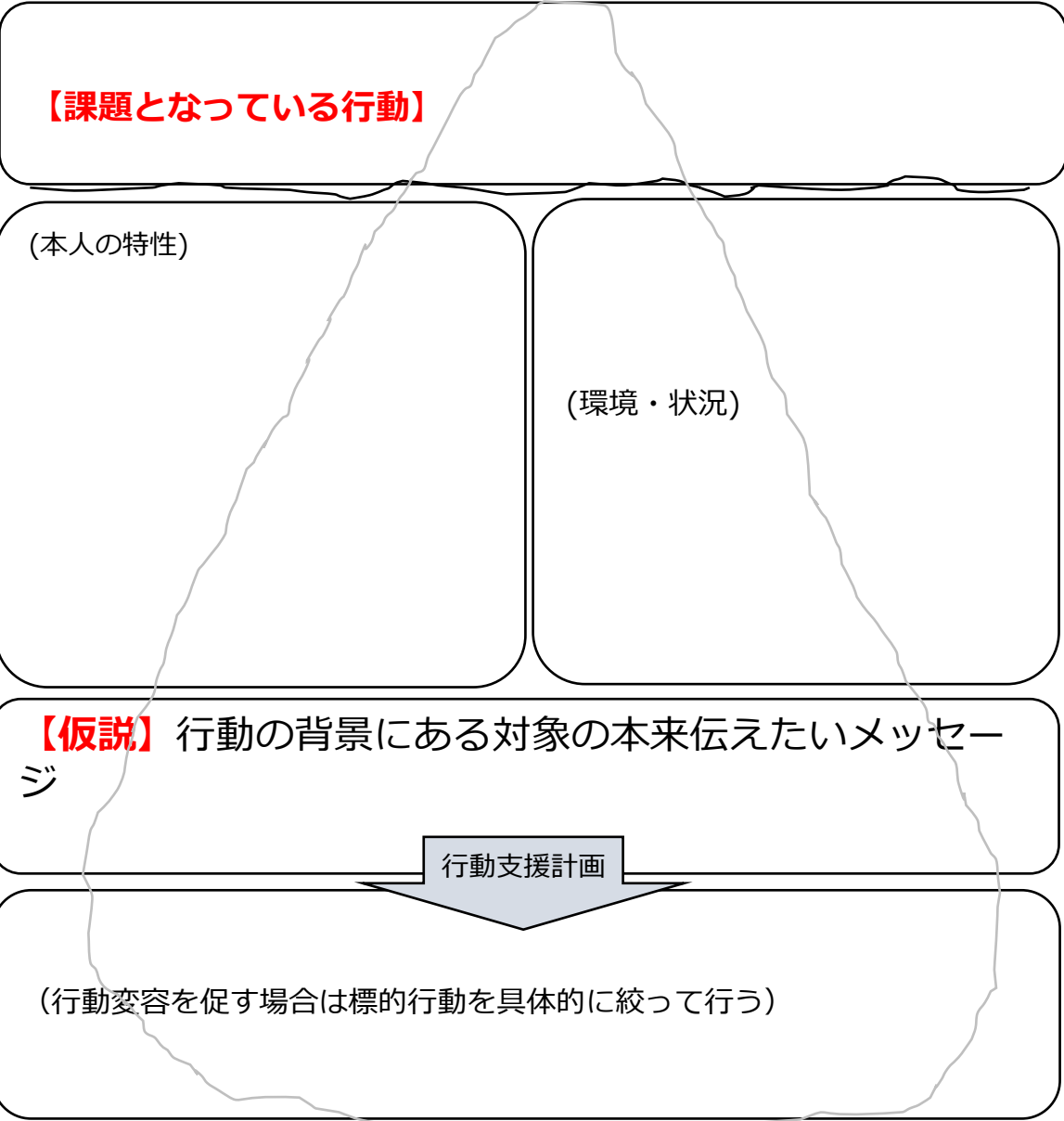
(行動変容を促す場合は標的行動を具体的に絞って行う)

冰山モデルシートは、見えている本人の行動（**課題となっている行動**）の背景を知るためのシートです。冰山とは、氷の塊が水面に浮かんでいて、見えている部分と見えていない部分があります。強度行動障がいの状態は目に見えていますが、なぜその状態になったのかを考えると、見えていない部分が手掛かりになります。見えていない部分（本人の特性、環境・状況）に注目することで本人の行動を理解します

マズローの欲求の階層

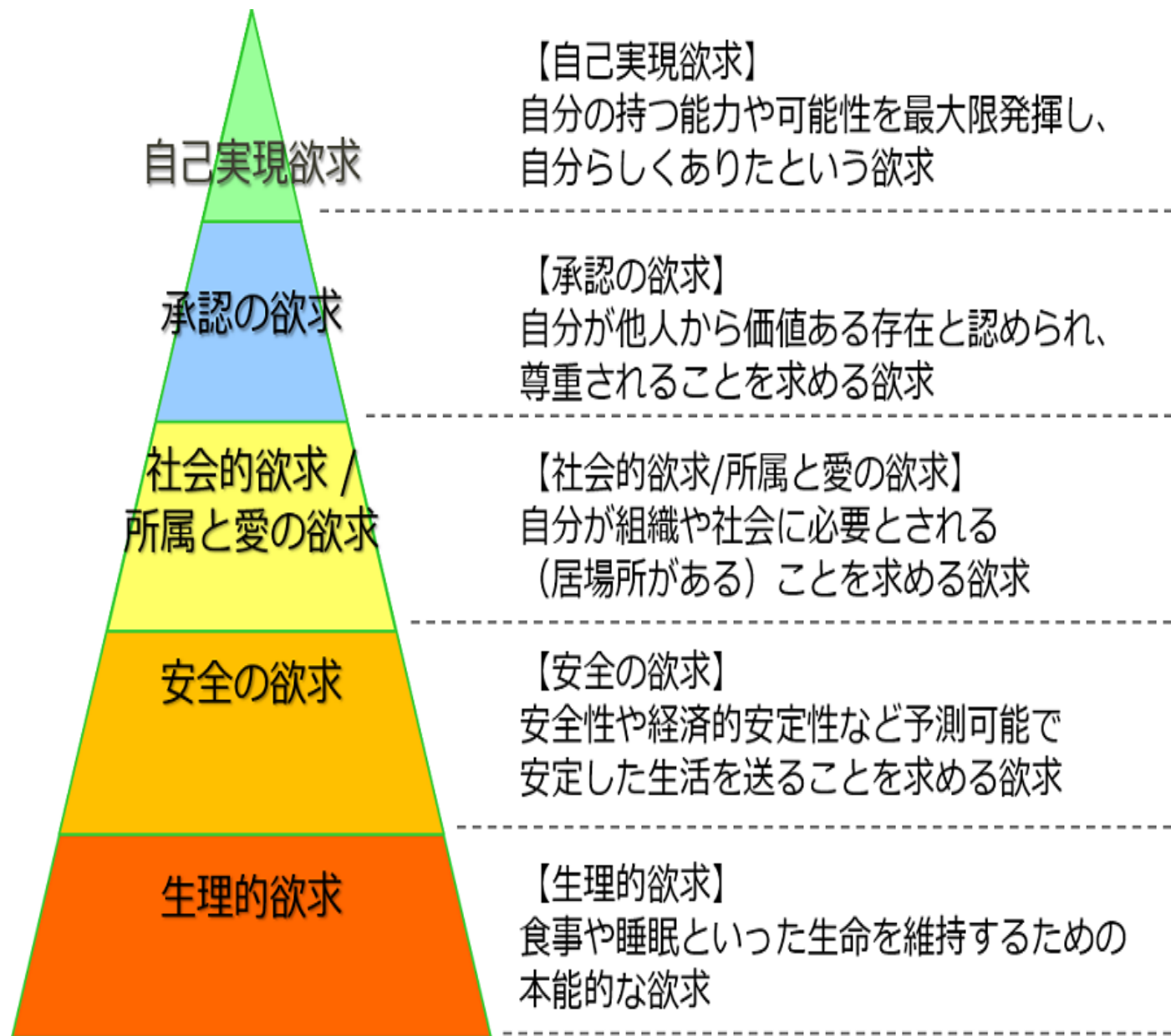


氷山モデルシート



ワーク 2

自分自身、目の前の
利用者について探究して
みてください



3つの脳の特徴



爬虫類脳

生命維持のための本能

心拍・呼吸・摂食・飲水・体温調節・性行動
安全意識



哺乳類脳

衝動的な感情

喜び・愛情・怒り・恐怖・嫌悪などの情動
仲間意識



人間脳

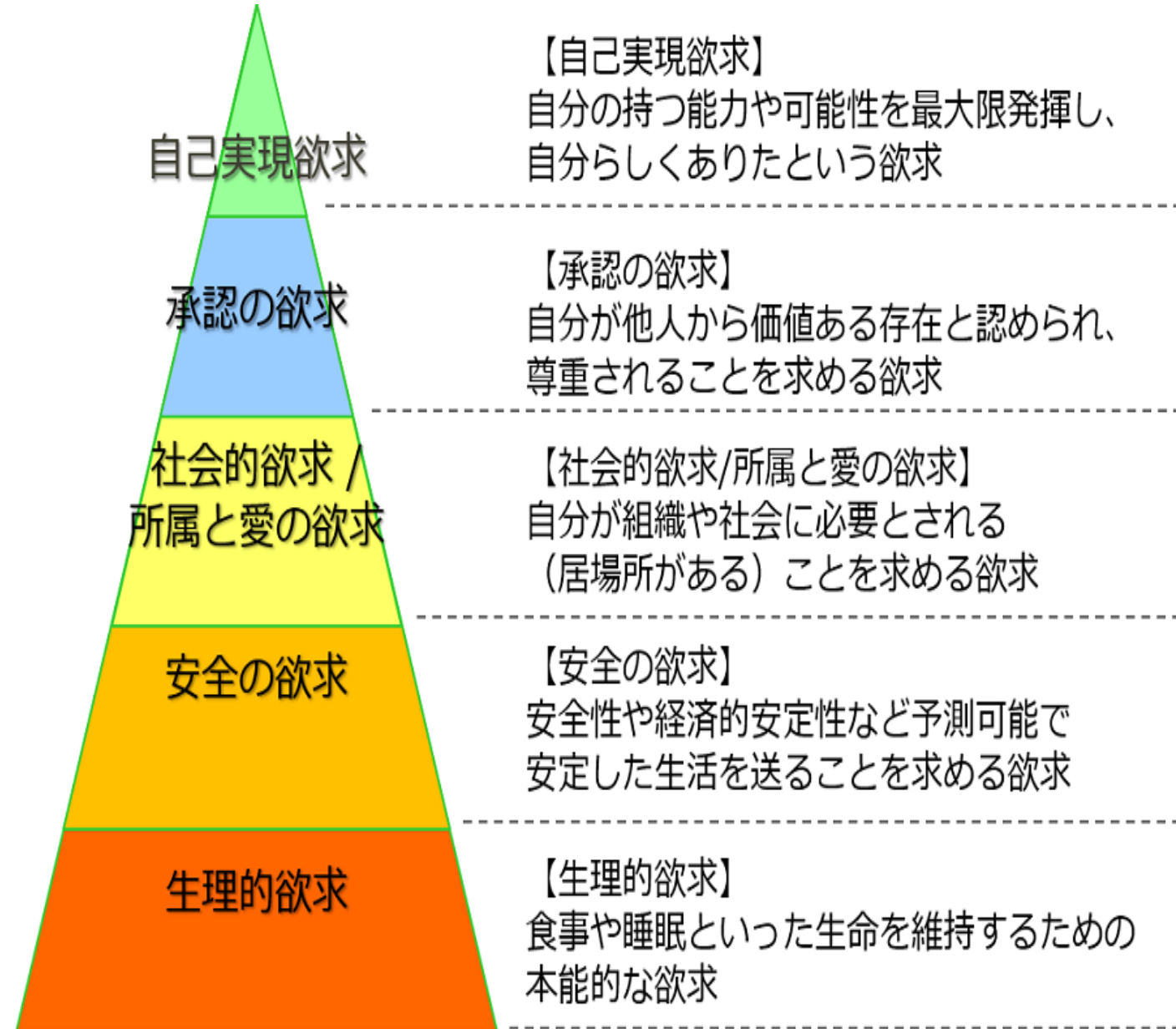
論理的で未来的な思考

知能・記憶・言語・創造・倫理・繊細な運動
目的意識

ポール・マククリーンの脳の三層構造の仮説は、現代の最新脳科学では厳密なモデルとしての正確性はありませんが、脳の構造と進化の大まかな理解や認識を得るのには便利な仮説です。



マズローの欲求5段階



氷山モデルシート

【課題となっている行動】

(本人の特性)

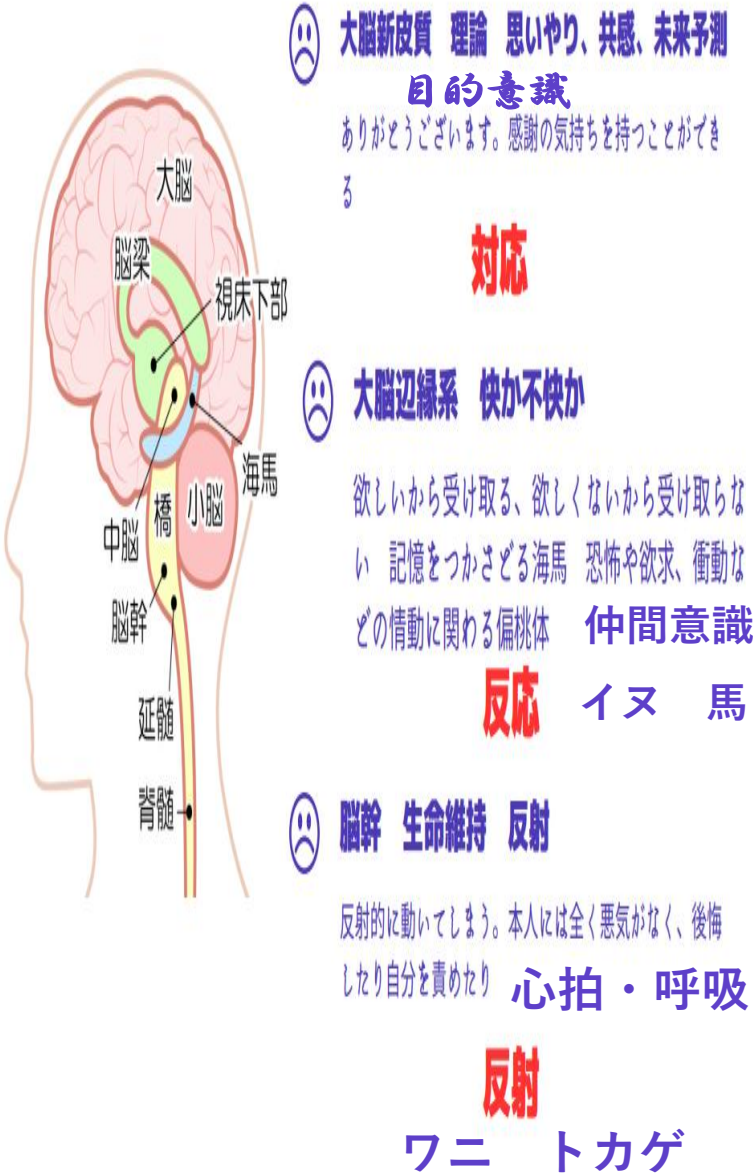
(環境・状況)
(身体状況)

【仮説】 行動の背景にある対象者の本来伝えたいであろうメッセージ

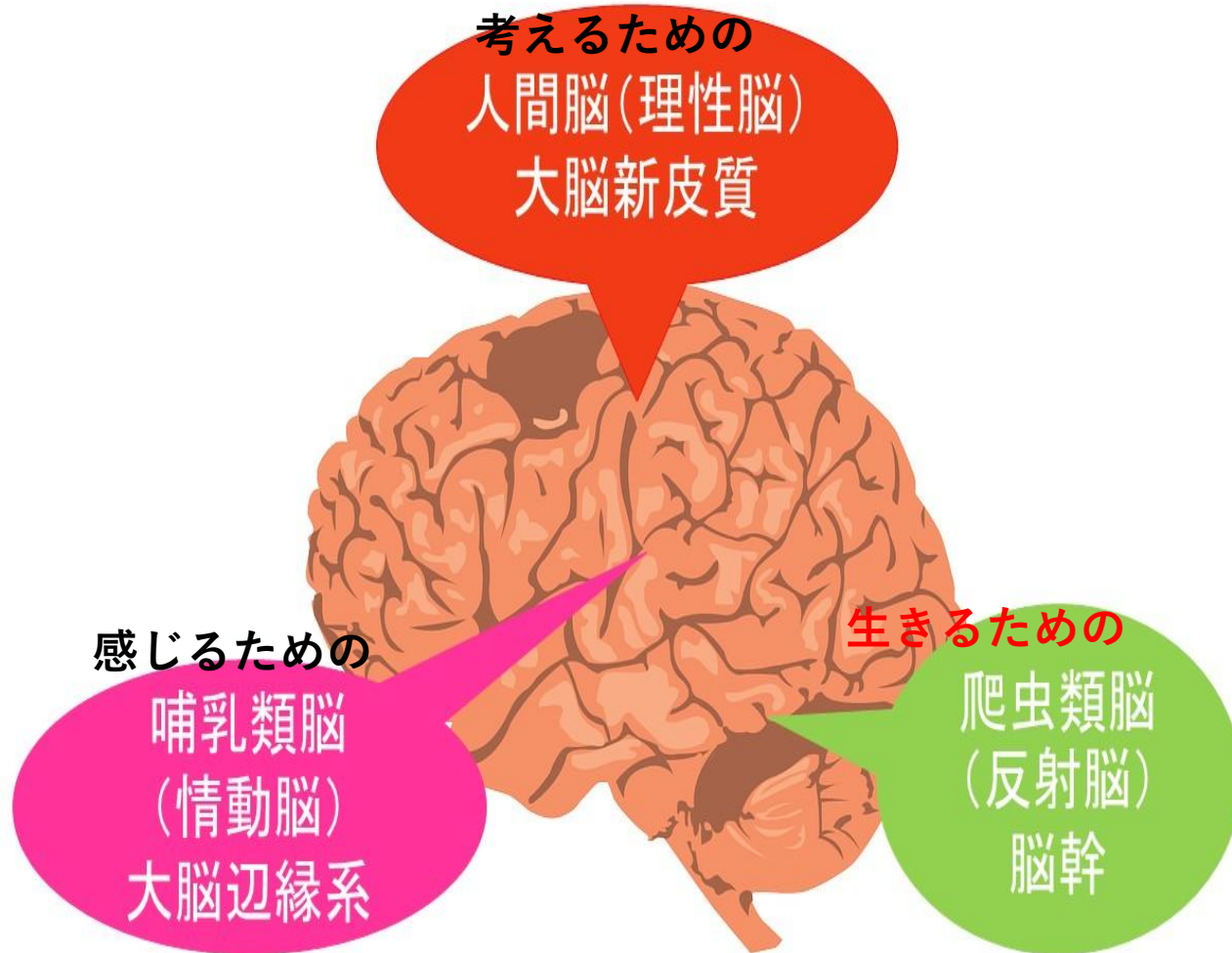
行動支援計画

(行動変容を促す場合は標的行動を具体的に絞って行う) (取り組みやすいところから)

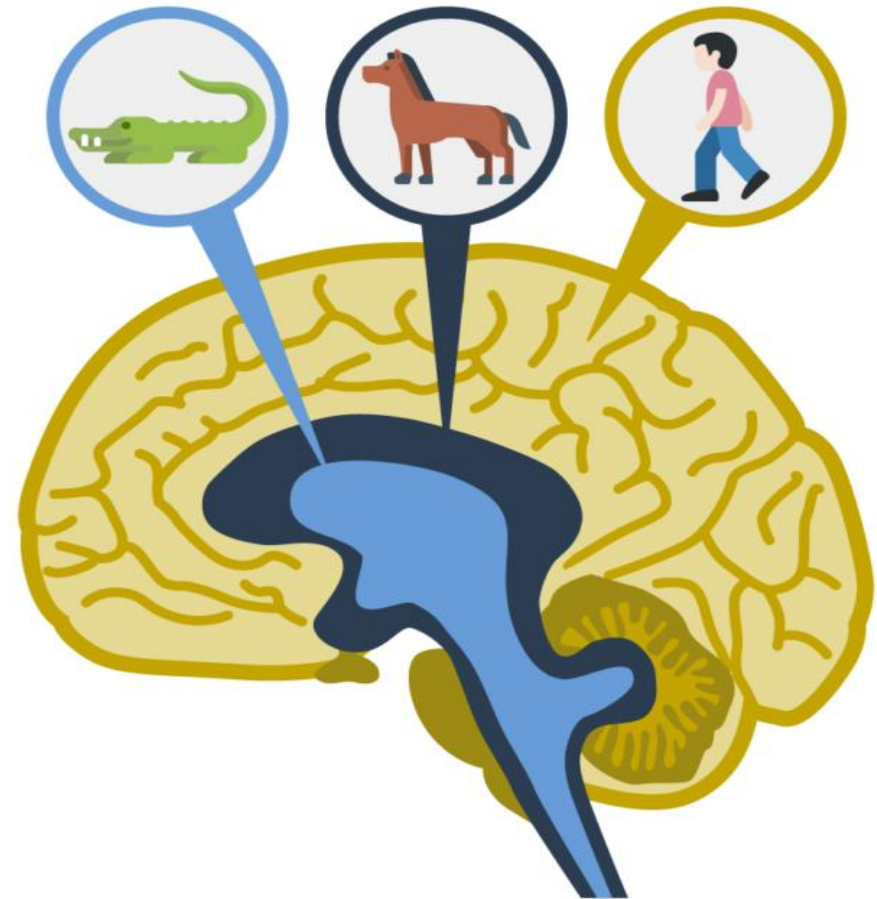
行動レベル



生きたい・関わりたい・成長したい

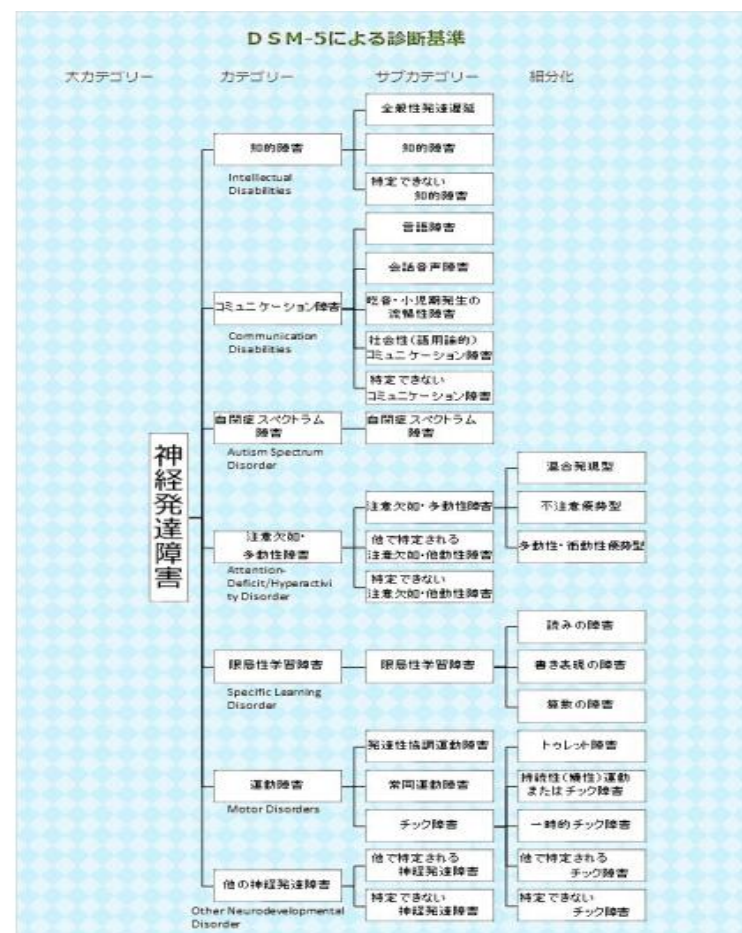


- 爬虫類脳(反射脳)
- 哺乳類脳(情動脳)
- 人間脳(理性脳)



発達障害→神経発達（症）障害

2013年改訂



DSM-5による診断基準

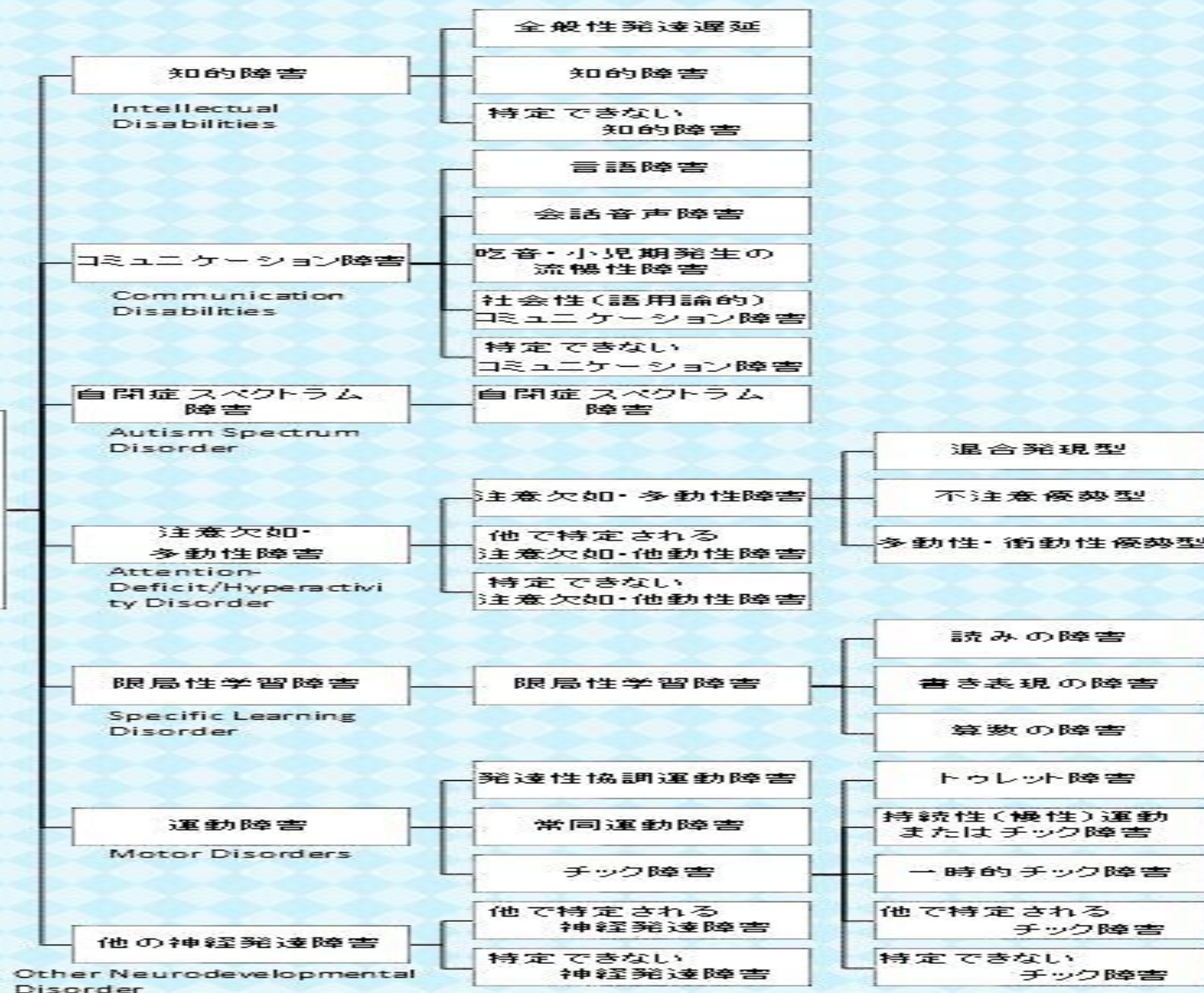
大カテゴリー

カテゴリー

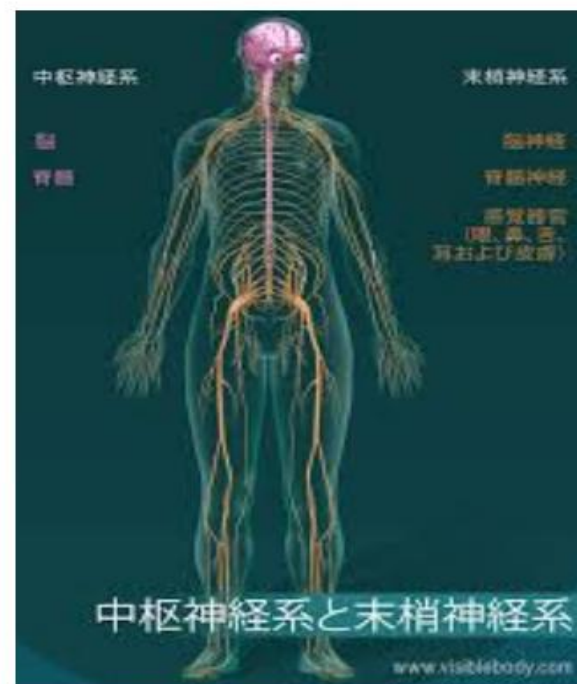
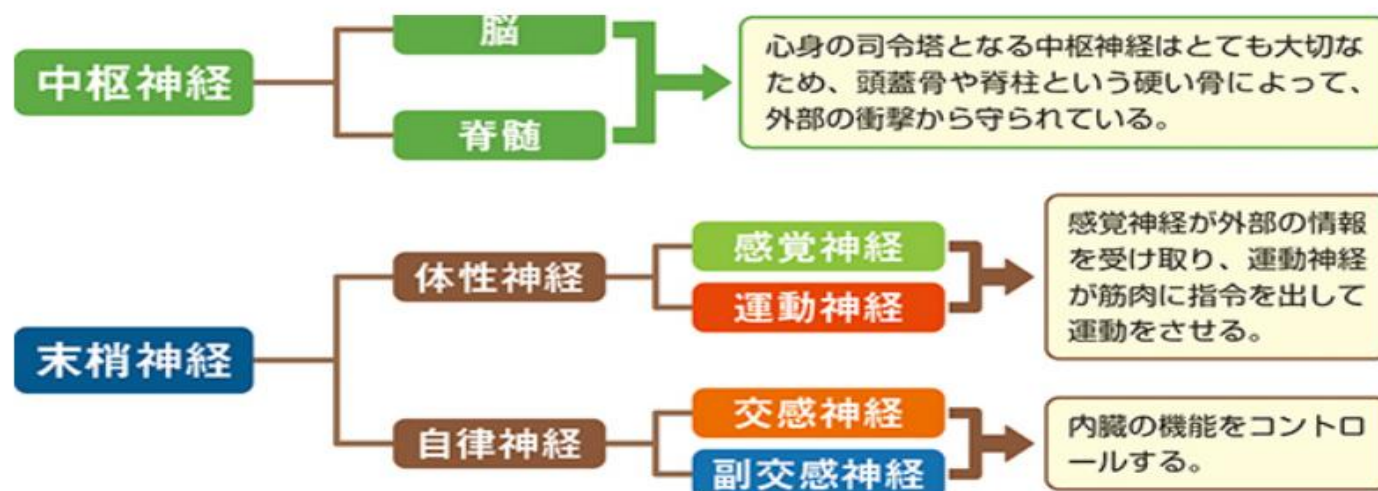
サブカテゴリー

細分化

神経発達障害



☹ 神経って



あなたや目の前にいる利用者の状態は？

- 1)何か楽しいことをしている時に世界が幸せな場所だと思える「リラックスした覚醒状態」
- (2)直感的に脅威だと判断される要素が周りにあり、世界は危険で怖い場所であるように思えてしまう「臨戦状態」
- (3)恐怖などに圧倒されてしまい、感覚が麻痺したように感じることもさへあり、世界が絶望的に感じられる「衰弱状態」

(人間の脳に関するあなたが知るべき7つの事実 GIGAZINEより引用)

ここまでの振り返り

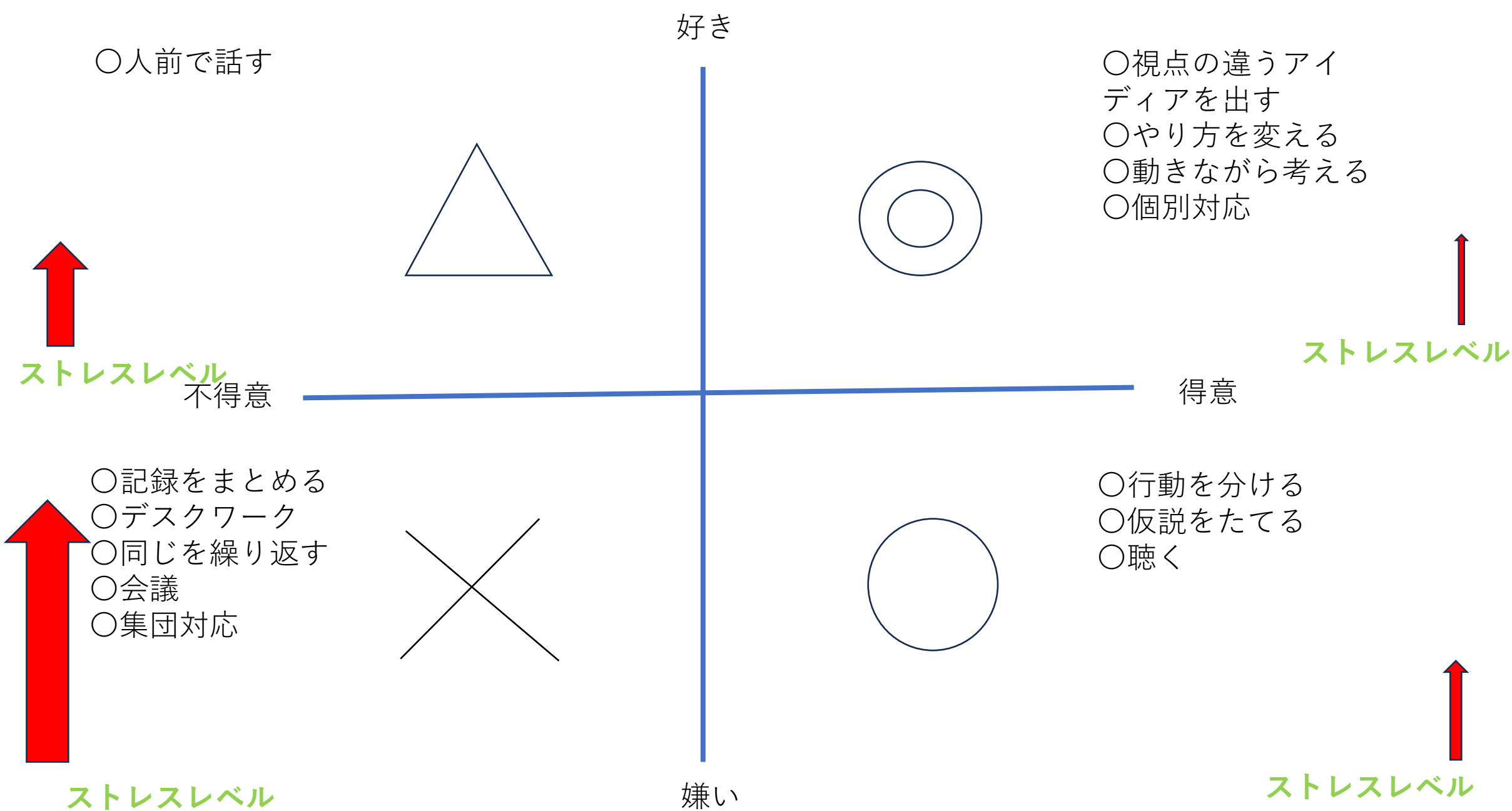
○安心安全な環境が確保されないと、生命維持反応の優先させて、反応・反射レベルの行動に出てしまう。

○逆に安心・安全な場にいると、大脳を働かせて、言葉や知識を用いて理性的に処理できる。

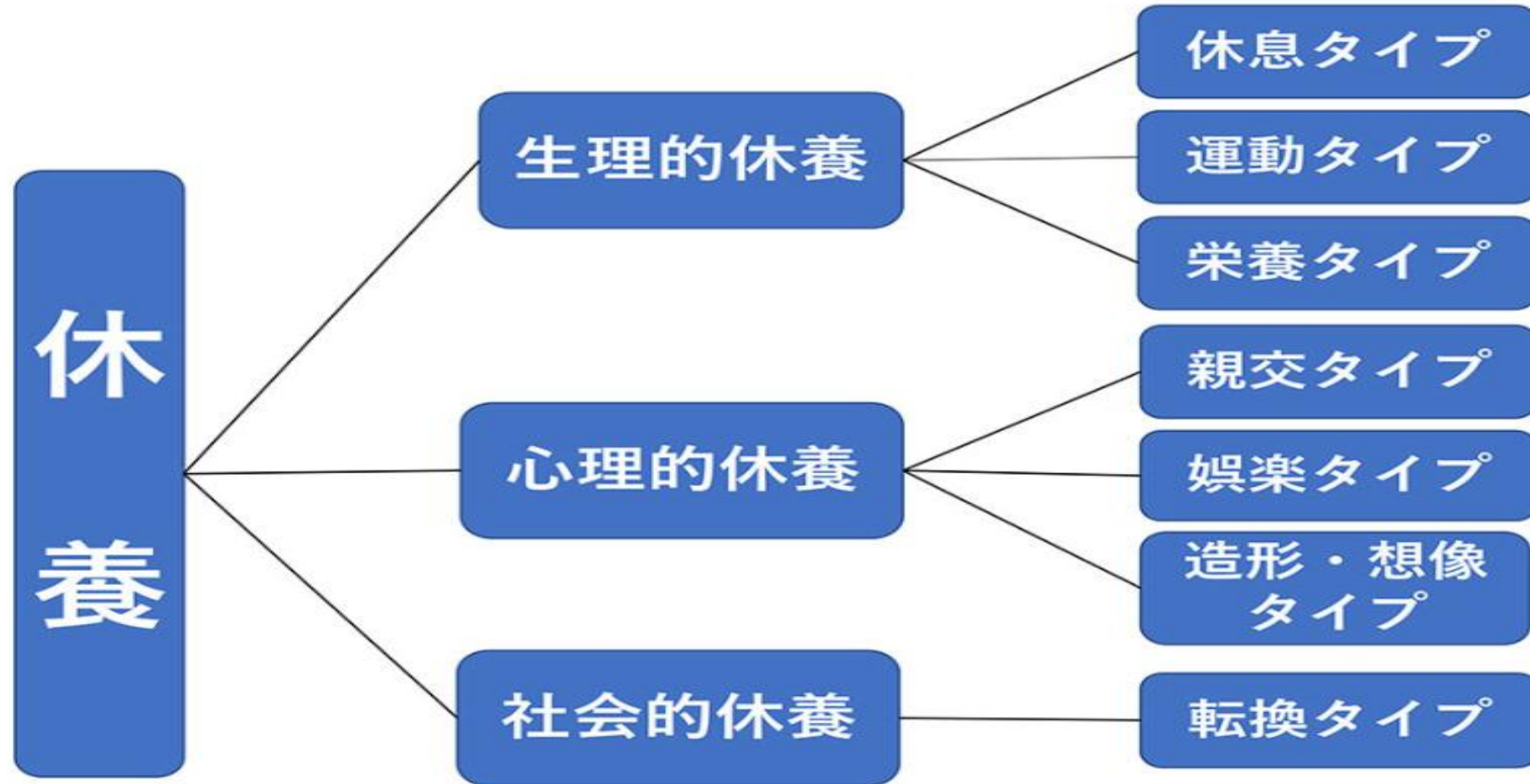
○行動障害のある利用者（パニック）も虐待をしてしまう支援者（カッとなる）も、生命維持反応が起きてしまっているのではないか。

○支援者自身も安心安全がない環境で、いくら知識を入れても、セルフメンテナンスしても生命維持反応は発動してしまうのではないか。

○虐待を防止するためには、①適切な支援の知識・②セルフメンテナンス・③安心安全④自分を知り、相手を知る⑤かけがえのない命それを意識できるチーム環境大事



●7タイプの休養モデル（杉田・片野式）



出典：「休養学基礎」メディカ出版

ワーク 3

あなたがこれまで手に入れたもの、これから手に入れたいものを出来るだけ多く上げてください。

例：車、仕事、家族、お金、役職、パートナー、信頼、

まとめ

～通報は、すべての人を救う～を実現するために

速やかな通報が、全ての人の被害、責任を最小限にし、虐待行為をエスカレートさせないための重要な行動となります

虐待を防止するために

- ①適切な支援の知識
- ②セルフメンテナンス
- ③安心安全なチーム作り
- ④自分を知り、相手を知る
- ⑤かけがえのない命

5つの機能を意識して、日々の支援に取り組むことがひいては虐待防止に繋がっていくと考えています。皆さんも是非この考え方を参考にしてくださいと思います。